

平成21年度後学期 学生による授業評価アンケート調査 (最終)

「アンケート結果に応じて」

所属部局	人文学部		氏 名	大村 光弘
講義コード	2332009010		講義名	英語学概論Ⅱ
開講曜日	火曜日	5・6時限	専門科目	
授業回数	15 回	休講回数	0 回	補講回数 0 回 受講登録者数 28 人
成績評価に際し注意した事項				
<p>評価が一方的ではなく、総合的になるようにしている。受講生からの成績評価基準や方法についての問い合わせに対応する (評価基準・評価方法の開示)</p>				
報告内容				
<p>毎年感じるごととして、受講生の間で授業の進度や難易度に対する感じ方が異なることがあげられる。進度が速いと感じる受講生もいれば、遅いと感じている受講生もいる。難しいと感じている受講生もいれば、簡単すぎると感じている受講生もいる。授業の進度や難易度はクラスの平均的學生に合わせざるをえないので、どうしてもこの問題は避けられないようである。今回も、この問題を解消する具体案は見つからない。</p> <p>つぎに、アンケート結果において「學生が重要であると考えているが、満足度は低い項目」として分析されている①「授業内容の難易度は適切なものでしたか?」、②「授業を受けて知識・技術が身に付きましたか?」、の2点について感想を述べたい。</p> <p>①については、上記の問題とも関連するが、進度や難易度について受講生の受取方が様々であるので、実質的な改善は不可能である。因みに、満足度を下げている要因は「B-」をマークしていた受講生が3名、「B」をマークしていた受講生が1名、「B+」をマークしていた受講生が6名いたためであろう。受講生評価の分布状況と実際の診断結果を比較すると、カルテの計算方法に疑問を持たざるを得ない。</p> <p>②についても、満足度を下げている要因は、「B-」をマークした受講生が1名、「B+」をマークした受講生が4名いたためであろう。受講生評価の分布状況と実際の診断結果を比較すると、ここでもカルテの計算方法に疑問を持たざるを得ない。</p> <p>今回の授業アンケート評価を見てみると、クラス全体の評価結果が非常によいことに驚いた。英語学概論という専門科目の内容からすると、毎年それほどよい評価をもらえないのが常であるが、今年の2年生には好評であったようだ。受講生の中には記述において、授業方法について高評価をしている受講生もいて、授業改善の成果が現れたこともうれしい。</p>				